

2014年7月1日

日本化学繊維協会と炭素繊維協会との統合について

日本化学繊維協会
炭素繊維協会

日本化学繊維協会（会長＝越智仁・三菱レイヨン社長）および炭素繊維協会（会長＝吉野隆・東邦テナックス社長）は、7月1日をもって統合しました。

両協会は、それぞれ固有の事業を通して業界の発展に貢献して参りましたが、統合することにより、発言力、総合力を高め、先端繊維素材産業の団体として、情報発信、市場開拓、規制対応、政策提言など業界団体機能を効率的かつ強力に進めて参る所存です。

手続きとしましては、炭素繊維協会を6月30日付けで解散し、日本化学繊維協会非加盟の（株）クレハ、東邦テナックス（株）、大阪ガスケミカル（株）、三菱樹脂（株）、日本グラファイトファイバー（株）の5社が7月1日に日本化学繊維協会に入会しました。炭素繊維協会の事業につきましては、日本化学繊維協会内に、「炭素繊維協会委員会」を設立し、継承するとともに、対外的には「炭素繊維協会」の名称を必要に応じて使用致します。

今後、先端繊維素材の分野で、日本が世界をリードする存在であり続けるべく、炭素繊維を含む高性能・高機能繊維について、オールジャパンの体制で情報発信事業、連携事業、標準化事業等を推進致します。

<ご参考>

日本化学繊維協会

化繊および化繊紡績メーカー21社（7月1日入会の5社を含む）の正会員で構成。1948年設立。

炭素繊維協会（旧）

東レ、三菱レイヨン、東邦テナックスのPAN系3社とクレハ、大阪ガスケミカル、三菱樹脂、日本グラファイトファイバーのピッチ系4社の正会員で構成。1978年に前身の炭素繊維懇話会が発足、1988年に炭素繊維協会に改称。

※PAN系炭素繊維 … PANプリカーサー(ポリアクリロニトリル繊維)を炭素化して得られるもので、高強度・高弾性率の性質をもつ。航空宇宙や産業分野の構造材料向け、スポーツ・レジャー分野など広範囲な用途に使われている。

※ピッチ系炭素繊維 … ピッチプリカーサー(コールタールまたは石油重質分を原料として得られるピッチ繊維)を炭素化して得られるもので、製法の諸条件で、低弾性率から超高弾性率・高強度の広範囲の性質が得られる。超高弾性率品は、高剛性用途のほか、優れた熱伝導率や導電性を生かしてさまざまな用途に使われている。

以上